

2014 年度
事業報告書

公益財団法人 宇宙科学振興会

2014年度(平成26年度)事業報告書

2014年度は当財団、宇宙科学振興会が2012年4月1日付で公益財団法人に移行して3年目の事業年度であった。当財団の事業目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、①宇宙科学奨励賞顕彰事業、②国際学会出席旅費支援事業、③国際学会開催支援事業の3事業である。2014年度においてもこれらの3事業を例年の水準で推進した。従来より施行していた宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙活動に関する他団体が中心となって企画・運営された事業への支援・協賛事業は、法人会計の管理費内で継続して施行した。

若手研究者対象とした2014年度の第7回宇宙科学奨励賞は、奨励賞選考委員会の選考結果の報告を受け、宇宙理学分野の若手研究者1名、宇宙工学分野の若手研究者1名合計2名に宇宙科学奨励賞を授与した。若手およびシニア研究者の海外渡航への支援については関係学会を通じて関係者に周知され、最近では毎年多数の研究者が応募するようになった。日本国内での国際学会主催の支援も近年は助成希望が増加したため、上半期開催分と下半期開催分の2回に分けて公募と審査をおこない、予算の限度内で支援を施行した。

当法人の管理・運営は極めて経費を節減した方法ながら、関係者の協力の下で順調に進められた。会計処理については2011年度よりは「公益法人会計基準(平成20年4月(平成21年10月改正)内閣府公益認定等委員会)」を適用している。なお、内閣府管轄下の公益財団法人は3年毎に1度立ち入り検査を受けることになっているが、当財団は移行後3年目となる今年(2015年)3月18日に宇宙科学研究所から借り上げている当財団事務室において行われた。内閣府からは2名の調査官が来訪し検査に当たった。当方は松尾代表理事、長瀬業務執行理事、野村隆監事の3名で対応に当たり、事務職員2名がサポートした。検査においては多数の助言、指摘をいただき、検査終了後には口頭による講評を受けた。指摘事項の内前回の定時報告における計上値や添付書類等の誤りについては既に修正報告を行った。財団運営をより合理的に行うための指摘事項の内定款・規則の改正の必要なものは、今年度(2015年度)5月の理事会、6月の評議員会に改正案を上程することにした。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞

公益財団法人宇宙科学振興会では宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ、将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的とした宇宙科学奨励賞をその前身の財団法人において2008年度に創設した。この事業ではまず関係学会(2014年度現在は15学会)の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の37歳以下の若手研究者(この年齢制限は大学院修了後約10年間を目途とするとの趣旨)のうちで最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。そして寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・

選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から1名、宇宙理学関係から1名、合計2名の候補者を選出する。理事長は理事会の委任によりその選考委員会の推薦に基づいて該当年度の授賞者の承認決裁をする。

2014年度は第7回目となるが、受賞者には賞状、表彰楯の他に副賞30万円が授与される。これに対し理学系9名、工学系3名、合わせて12名の授賞候補者の推薦を関係学会等各分野から受けた。2014年11月28日(金)に第1回、2014年12月26日(金)に第2回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。選考委員会において審査の結果、理学関係では宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、宇宙航空プロジェクト研究員の吉岡 和夫(よしおか かずお)氏に対してその研究題目「極端紫外光を用いた惑星圏の観測的研究」を対象として、また工学関係では宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、助教の山田 和彦(やまだ かずひこ)氏に対してその研究題目「柔軟構造による再突入飛行体の研究開発」を対象として、それぞれ第7回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。

表彰式は2015年3月10日に霞が関ビル東海大学校友会館において約60名の出席者を得て開催され、吉岡和夫、山田和彦、両氏には松尾理事長より本賞(賞状と表彰楯)と共に副賞(賞金30万円)が贈呈された。当日は引き続き吉岡和夫氏、山田和彦氏による受賞記念講演が行われ、その後財団主催の祝賀会が開かれた。

(2) 若手及びシニア国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の旧財団法人により1997年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている35歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006年度以降は、大学及や研究機関などを退職後も、活発な研究活動を行っている63歳以上のシニア研究者に対しても、支援を行っている。

この事業は、昨年の理事会において2014年度以降は従来の年3回の公募から年2回の公募に変更することが決定され、年度前期に当たる2014年度4月～9月の渡航を対象とする国際学会に対しては前年度に相当する2014年1月15日に応募が締め切られたが、応募規定変更の一部公示の不手際が生じたため、暫定的処置として今年度に限り2014年7月～9月の渡航を対象とする国際学会に対して5月15日締め切りでの応募を受付けた。また年度後期に当たる2014年度10月～2015年3月の渡航を対象とする国際学会に対しては2014年8月31日(応募締切日を従来の7月15日より変更)に応募が締め切られた。

これに応募した旅費支援の申請は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査された。従来応募総数に対する採択率は平均して3分の1程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報を含めて財団のホームページに公表される。そして渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を渡航1ヶ月内に提出頂き、提出された報告書は財団のホームページに掲載している。

この国際学会出席旅費支援の公募は、財団の公式ホームページの他に関係 15 学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には 1 件当たり 10～25 万円の範囲で助成を行うこととしており、2014 年度の予算では期間中に 10～15 件程度の国際学会出席旅費支援を予定したが、審査の結果、1 月 15 日締め切りの応募に対し 2 件、5 月 15 日締め切りの応募に対し 5 件、8 月 31 日締め切りの応募に対し 4 件、合計 11 件（応募者総数 45 件、採択率約 24%）に対して助成の採択を決定した。そして採択者には公示の枠内（1 件当たり 10～25 万円）で渡航先、開催期間・渡航時期に基づいて算定された助成金が支給された。2014 年度においては本事業の助成金予算額 200 万円であったのに対して実施助成金額合計は 217 万円であった。表 1 に 2014 年 1 月 15 日、5 月 15 日、8 月 31 日締め切りで募集し、2014 年度に実施した国際学会出席旅費支援 11 件の一覧を示す。各採択者の国際学会参加・発表の成果は財団のホームページに記載されている。

表 1 2014 年度 国際学会旅費支援 助成支援者一覧

所 属	氏 名 (生年月日)	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	期 間
〈若手〉					
宇宙航空研究開発機構 日本学術振興会海外特別研究員	ヤン チイホン (1979.8.21)	宇宙航行力学国際学会	Applied Physics Laboratory, Johns Hopkins University	メリーランド州、アメリカ合衆国	2014年5月5日～9日
青山学院大学 理工学部 物理・数理学科助教	オオヒラ ユタカ 大平 豊 (1982.4.9)	第40回コスパー科学会議	Committee on Space research	モスクワ、ロシア	2014年8月2日～10日
SRON Netherlands Institute for Space Research 日本学術振興会 海外特別研究員	アカマツ ヒロキ 赤松 弘規 (1984.8.18)	応用超伝導国際会議	The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.	シャーロット、アメリカ合衆国	2014年8月10日～15日
筑波大学システム情報系 助教	カナガワ テツヤ 金川 哲也 (1984.3.3)	第9回 宇宙環境利用のための二相流現象に係る国際会議	University of Maryland および NASA	ボルチモア、アメリカ合衆国	2014年9月22日～26日
工学院大学 助教	ハセガワ コウジ 長谷川 浩司 (1985.11.18)	第9回二層流技術の地上及び宇宙環境利用に関する国際学会	University of Maryland および NASA	ボルチモア、アメリカ合衆国	2014年9月22日～26日
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 助教	ツキザキ リュウドウ 月崎 竜 童 (1984.5.18)	国際宇宙会議	International Astronautical Federation	トロント、カナダ	2014年9月29日～10月3日
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙航空プロジェクト研究員	カワグチ ニウコ 河口 優子 (1984.4.11)	第14回 ヨーロッパ アストロバイオロジー会議	European Astrobiology Network Association	スコットランド、エジンバラ	2014年10月13日～16日

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 宇宙 航空プロジェクト研究員	オカモト タケヲ 岡本 丈典 (1980.10.4)	太陽大気における連結性と 活動性	Inter-University Center for Astronomy and Astrophysics	インド プネ	2014年11月10 日～14日
東北大学大学院 工学 研究科 航空宇宙工学専攻 助 教	オギノ ヨウスケ 荻野 要介 (1980.5.17)	AAAScience and Technology Forum and Exposition 2015	American Institute of Aeronautics and Astronautics	アメリカ合衆 国、フロリダ 州キシミー	2015年1月5日 ～9日
東京理科大学 基礎工 学部材料工学科 博士 研究員	クボタ ヌウキ 久保田 勇希 (1986.6.16)	第39回先進的セラミックス及 びセラミックス複合材料に関 する国際会議及び博覧会	The American Ceramic Society	アメリカ合衆 国、フロリダ	2015年1月25 日～30日

<シニア>

理化学研究所	マツオカ マサル 松岡 勝 (1939.3.26)	国際宇宙空間研究委員会 による科学国際会議	国際宇宙空間研 究委員会	モスクワ	2014年8月2日 ～10日
--------	---------------------------------	--------------------------	-----------------	------	-------------------

(3) 国際学会・国際研究集会開催の支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援・助成は前身の財団法人宇宙科学振興会の創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったため、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず理論的研究等も含めて、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。従来は申請を受理するたびに審査会を開催し、その学術的意義と効果の審議により採否の判定をしていたが、財団の限度のある財源内で応募の機会均等性を確保するため、2011年度以降は年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りを前年度1月15日、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを7月15日として実施してきた。2014年度7月15日には2件の応募があったが、内1件を採択した（加えて2014年1月15日の募集で2件の応募から採択した2件は2014年度に実施した）。2014年度支援を実施した国際学会・国際研究集会3件の一覧を表2に示す。この支援事業に対する2014年度の助成予算額150万円のところ実施助成額は120万円であった。各国際学会開催の状況や成果の概要は財団のホームページに掲載されている。

表2 2014年度 国際学会開催支援 助成支援学会一覧

所 属	申請者	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	開催期間
国立天文台 天文データセンター センター長	オオイシ マサシ 大石 雅寿	第2回生命の起原アスト ロバイオロジー国際学会 -バイオアストロノミー合 同大会	生命の起原とアストロ バイオロジー国際学会 および国際天文学連 合第51委員会	奈良県新公会堂	2014年7 月6日～ 11日
大阪産業大学 教養部 准教授	チハラ ヒロキ 茅原 弘毅	Cosmic Dust	Cosmic Dust 組織委員 会	大阪産業大学梅 田サテライトキャ ンパス	2014年8 月4日～8 日
九州工業大学 宇宙環境技術ラボラト リー	チョウ メンウ 趙 孟佑	第二回 UNISEC 世界大会	大学宇宙工学コンソー シウム、 九州工業大学	九州工業大学	2014年11 月18日～ 20日

II. 財団の管理運営

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長1名、非常勤事務職員2名の計3名体制で財団の管理運営を行っている。会計処理は「公益法人会計基準（平成20年4月（平成21年10月改正）内閣府公益認定等委員会）」を適用している。

(1) 宇宙科学に関する知識の普及・啓蒙事業

当財団が一般支援事業として行っている本事業の目的は広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若手青少年の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本事業は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2014年度に支援、後援、共催、協賛を行なった支援先は表3に示す通りである。従来これらの団体からの支援要請に対する受け入れは予算の許す範囲内で業務執行理事および運営委員会の判断で行なってきた。本事業は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、新公益財団法人への移行後はこれらは当財団の公益事業とは認められないので、規模を縮小し経費は財団の管理・運営費（法人会計）から支出するこ

ととし、協力の可否は運営委員会で審査することとした。2014年度の支援・協賛額は約63万円であった。

表3 2014年度 啓蒙普及目的一般支援一覧表

支援内容	支援先
第13回 君が作る宇宙ミッション協賛金 8/4~8 開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙教育センター
2014年度 JAXA 相模原キャンパス特別公開 協賛事業 スタンプラリー景品代 7/25.26 開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
第24回 モデルロケット全国大会助成金 11/1 開催	日本モデルロケット協会
第22回 衛星設計コンテスト協賛金 11/8 開催	財団法人日本宇宙フォーラム

(2) 基本財産の現況と運用

1990年の当財団創設時に出捐会社・企業等から受けた寄付金は約4億3千万円であった。これはその後財団の指定基本財産として、長期、元本保証の公社債等で運用されている。2014年度末における指定基本財産および一般基本財産総額は約4億5,762万円であり、基本財産の運用に伴う果実は約1,044万円（約2.28%）となり、前年度実績より約111万円の増加となった。

(3) 賛助会員の加入状況

2014年度の会員数は、12法人（25口※）であった。（※ 1口10万円）

(4) 理事会、評議員会の開催

2014年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

- ・2014年5月22日：宇宙科学研究所（G棟2階会議室）において理事会を開催し、「2013(平成25)年度事業報告及び財務諸表等承認の件」、他3議案について審議・承認を行った。
- ・2014年6月10日：東海大学校友会館（諏訪の間）において評議員会を開催し、「2013年度事業報告及び財務諸表等承認の件」について審議・承認を行った。
- ・2015年3月10日：東海大学校友会館（霞の間）において理事会を開催し、「2015年度事業計画及び収支予算案承認の件」、他2議案について審議・承認を行った。

Ⅲ. 附属明細書について

2014年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上

(参考資料)

2014年度 事業別応募採択数 (公募年度で集計)

(2014年4月～2015年3月)

1) 国際学会旅費支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
5/15締切	24	5	950,000
8/31締切	12	4	750,000
2/28締切	14	8	1,480,000
計	50	17	3,180,000

2) 国際学会開催支援

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
7/15締切	2	1	400,000
1/15締切	6	3	1,000,000
計	8	4	1,400,000

3) 宇宙科学奨励賞

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
10/31締切	12 (理9・工3)	2	600,000